

令和5年度

大江町総合教育会議 会議録

期 日：令和5年12月19日

大江町教育委員会

- 1 招集年月日 令和5年11月22日
- 2 招集の場所 大江町中央公民館 多目的ルーム
- 3 開会年月日 令和5年12月19日 午後3時
- 4 出席委員
- | | |
|-------------|------|
| 大江町長 | 松田清隆 |
| 大江町教育委員会教育長 | 清野均 |
| 大江町教育委員会委員 | 山家貴代 |
| 大江町教育委員会委員 | 阿部国彦 |
| 大江町教育委員会委員 | 鴨田幸恵 |
| 大江町教育委員会委員 | 海野晋 |
- 5 会議に出席した者
- | | |
|------------------|-------|
| 大江町立左沢小学校校長 | 建部敦 |
| 大江町立大江中学校校長 | 志田雅彦 |
| 大江町立本郷東小学校校長 | 矢作誠 |
| 大江町立大江中学校教頭 | 奥津秀昭 |
| 大江町立左沢小学校教頭 | 田代拓 |
| 大江町立本郷東小学校教頭 | 西谷輝彦 |
| 大江町立藤田の丘分校教頭 | 村山一彦 |
| 大江町総務課長 | 五十嵐大朗 |
| 大江町総務課長補佐 | 金山浩 |
| 大江町教育委員会教育文化課長 | 西田正広 |
| 大江町教育委員会学校教育主幹 | 齋藤恒治 |
| 大江町教育委員会教育文化課長補佐 | 高瀬こずえ |
| 大江町教育委員会学校教育係長 | 長谷川慎吾 |
- 6 協議事項 (1) 次期大江町教育振興計画に向けて
(2) 大江町の今後の学校のあり方について

◎開会

○西田教育文化課長

令和5年度大江町総合教育会議の開催を告げた。また、今回校長会、教頭会からも参加をいただいているが、教育振興に向けて各般のご意見をお聞きしたいことから、合同の会議としたことを告げた。また会議の主旨を議事録としてまとめ、町ホームページにより公表していくことを告げた。

◎あいさつ及び講話

○松田町長

会議に出席いただいたことに謝辞を述べ、その後、今後の学校のあり方や学校教育と社会教育の連携、コミュニケーション能力の育成等について講話をおこなった。

○清野教育長

会議に出席いただいたことに謝辞を述べ、その後、不登校支援の状況や部活動の地域移行化の現状、共生教育の重要性等について講話をおこなった。

◎情報・意見交換

○西田教育文化課長

意見交換をおこなうこととし、町長が座長となり会議を進めることを述べた。

意見交換

- (1) 次期大江町教育振興計画に向けて
- (2) 大江町の今後の学校のあり方について

松田町長： 12月の議会も終わり、今年度の事業を総括しながら、来年度の予算編成に向けた各課からの提案について、副町長と総務課長で聞き取りを行っております。年が明ければ、来年度の予算を決めていく重要な時期になってきます。そんな中での総合教育会議でありますので、様々なご意見をいただき、来年度の予算に活かすものや、その先の将来を見越した取り組みへの参考にさせていただけるようなご提案を賜れば、との気持ちで参加させていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

本日お集まりの方々には、教育委員会だけでなく、町行政全般に亘り様々な面からご理解とご協力をいただいておりますこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。また、大江町の学校教育・社会教育の各種事業の展開をしていく中で、町の子どもたちの健全育成、町民の生涯学習の充実に日々奮闘していただいていることに対して感謝を申し上げます。

今年の5月にコロナの5類移行が宣言されましたが、それまでの3年以上に亘るコロナ禍の中では大変なご苦勞をなされ、町・教育委員会・学校の連携で、なんとか乗り越えられたものと思います。これは、学校の現場で奮闘された校長先生を中心とする教職員みなさんの踏ん張りがあったこそだと思っていますので、改めて先生方に敬意と感謝を申し上げたいと思います。コロナ禍が明けましたが、今年はインフルエンザの流行もあり、学校の現場や町内で生活する中でも思うように元に戻らない状況になっていると感じます。しかし私が日頃思うには、コロナ前に戻るのではなく、コロナ禍という3年半余りの未曾有の出来事に費やした私たちの経験を活かして、新しい形の生活を創って取り戻していくことが必要ではないかと思っています。単に、すべてを元に戻すような視点ではないと考えていただきたいわけです。例えば、手洗いやうがい以前から学校の現場では推奨して取り組んでいたはずですが、コロナでより徹底した予防効果が得られたのはもちろん、習慣として続いていけばインフルエンザ等の対策にも十分なり得るので、良いものは続けていくスタンスで取り組んでいく必要があります。

また、町の仕事を考えた場合、オンライン会議も頻繁に行われていました。私自身、今もなかなか馴染めない部分がありますが、時間の短縮にも繋がりますし、効率的にも有効な手段だと思います。要は使い分けが必要なのです。これからは、オンライン会議等に代表されるように、有効に使えるものは3年間の経験を活かして上手く使っていく。そうでないものは、省くべきは省いて、良い所だけ用いていくという、両面使いで取り組んでいくことが必要なのだと思います。役場内でもよくあるのですが、「前はこうしていたから同じようにしないといけない」ではなく、新たな視点で取り組んでいただければ、更に効率も上がり、新しい創造へと繋がっていくと思います。

さてここからは、参加されているみなさんと意見交換させていただきたいと思いますが、教育委員側と学校側とで、一人ひとりにお話しいただく時間を持ちながら進めたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

山家委員： 先日、左沢小学校6年生の「JR左沢線の活性化について」提言がありましたが、本当に感動いたしました。そして、子どもたちが緊張しながら頑張って発表した内容について、ひとつでもいいので実現していただきたいと願っていたところ、町長が「その責任が私たちにはある」とおっしゃられたので、非常に嬉しく思います。自分たちの想いを、大人はちゃんと受け止めてくれるのだと子どもたちが感じ取った時に、喜びもより一層深いものになり、大江町を愛する心にも繋がっていくのではないのでしょうか。

加えて、現在の中学生や高校生、いわゆるZ世代と呼ばれる年代の考えを、学校のあり方を考えるうえで取り入れていただきたいと思っています。『面白い』『楽しい』といった切り口から、Z世代はどのように学校のあり方を考えているのかを聞いて、それを参考にしな

がら創り上げていけたら良いと思います。

話は違うかもしれませんが、私は長いこと読書感想文の審査をしてきました。その中にはもちろん素晴らしい作品もあるのですが、一方でいつも感じていることがありました。

「こんなに素晴らしい感想文を書ける子どもたちなのに、どうして自信が持てないのだろう」ということです。私たちがおこなっている教育には、何か大きな課題があるのではないかといろいろ反省したくなってしまふことがあります。学校では今、自尊感情を高めようと取り組んでいます、自分が好きだと思ふことに対して「良いね」と言い合える雰囲気づくりが必要だと思います。不登校の生徒に対しても、『不登校』は悪いことと決めつけるのではなく、もう少し違ったプラスの見方をするのが大事だと思います。

先生側としてはとても忙しくなりますが、「自分は家で勉強したい」、「自分が学校に行かないことを選択したのだ」という出発点を持たせてオンライン授業等の形で取りこませる。子どもたちに選択する余地を持たせる、自分たちが自分の良さを出せるような学校だと良いのではないかと、感想文を読みながら思ふます。だから私は、「本を読め」と言ひます。本の中では誰からも否定されることなく、ありのままの自分でいられるのだから本を沢山読むようにと言うのですが、本を読むことも含めて実際の人間関係の中で「良いね」と言い合える雰囲気こそが、これからの学校に求められる「多様性」、「共生」へと繋がっていくのだと思ひます。そのような学校が出来ると良いと思ひているところです。

松田町長：素晴らしいご意見をありがとうございました。子どもの自主性を捉えて、寄り添っていきけるような体制づくりが必要なのではないかと改めて思ひました。

建部校長：人付き合いを通して感じること、つまり「生きた学習」が大事だということを、今回の左沢小学校 150 周年の学校祭を通して私自身が痛感しました。地域のお世話になっている方々に来ていただき、授業に関わってもらふことがすごくエネルギーになるのだと思ひました。だからこそ、地域の人、子どもたちの家族や一番身近な人を、学校側は大切にしていかなければならないのだと改めて感じました。子どもたちも、地域の方々から自分たちの授業に参加していただくことで、人との関りについて学べたことが最も大事な部分だったと思ひますし、感謝したいと思ひます。

もうひとつ、次期教育振興計画に向けて、新たに取組むことや廃止してもよいものがあるだろうかと思ひながら町長と教育長のお話を聞いておりました。そしてその中で、絶対廃止してはいけないものがあると感じました。それはやはり「共生」です。今の時代は強く言わないと自分の希望が叶わない傾向が強くなっていると思ふのですが、それぞれの立場で折り合いをつけながら進めていくことが「共生」なのだと思ひます。今はまさに、共に協力しながら生きていかなければならないという感覚が薄くなっているの、ますます「共生」の考え方が重要になってくるのだと改めて再確認できました。ぜひ、「共生」という言葉は残していただきたいと思ひます。

阿部委員：建部校長と同じ思ひです。町長と教育長のベクトルも一緒だと感じました。

まさに今、「共生」の話がありましたが、「新自由主義」が始まって 100 年くらい経つわけですが、その中で日本の政治や経済の基本的なやり方になってきている時代で、ますますその傾向強くなってきていると感じます。その中で、ある意味「新自由主義」は悪いように言う「今だけ」、「金だけ」、「自分だけ」の三つが代表されると思ひます。そのような風潮の中で「共生」という言葉に触れていただきましたが、「共生」こそ必要だと 20 年前から大江町で 1 番目指すべき大事な言葉として使われてきたことは先見の明があったからだと思ひておりました。新たな教育振興計画の中でもそのような視点を中心に進めていた

だきたいとみなさんも思っているはずですが、私も同じです。町長が選択した現状を理解したうえで、我々も一体となって進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

松田町長： ありがとうございます。学校のことは特に、「どうするか」が先ではなくて「今の状況がこうだからどうしたら良いのか」と議論を積み重ねて理解を深めていくことが大切だと思いますし、そうしていきたいと思っております。

志田校長： 学校は、子どもたちが将来生きていく力を育てる場所だと思っています。その中で特に、中学校は高校に進まない子にとっては義務教育最後の学校であり、そこは社会の縮図だと思っています。

子どもたちが社会に出るうえでは、中学時代にたくさん失敗してほしいですし、友だちとも喧嘩したら仲直りする方法を身に付けてほしいです。失敗しても立ち上がってくる力が必要ですし、世の中すべてが上手くいくとは思いませんので、たくさん経験しながら卒業してほしい思いがとても強いです。

先日、来年度の生徒会役員改選の立会演説会があり、2年生の立候補者から「来年、大江中学校を良い学校にしたいです、楽しい学校にしたいです」との言葉がたくさん出てきました。そんな中で、あるひとりの生徒が「誰ひとり取り残されない学校を作りたい」と言ってくれました。私も、それは非常に大事だと思っております。本校の生徒で、学校に来ることができない生徒についても取り残されないことは非常に大事だと思います。勉強においても、授業に参加できない場合はリモートで参加できる体制を構築しなくてはなりません。リモートでどれくらいの学習効果があるかということ、そこまでの効果は求められないですが、それでも体制の構築は必要です。

しかし一方で、これからは変化の激しい時代ですので、学校に来て友だちと一緒に勉強して問題を解決していく力を身に付けていく必要もあると思っております。そうした時に、先ほど町長の話にもあった「コミュニケーション力」、「課題解決能力」を学校の教育活動で、授業を通して身に付けていくことを大事にしていきたいと思っております。

また不登校の生徒と話をすると、なぜ不登校になったのか原因が不明で、生徒はもちろん保護者も将来のことをとても心配しています。その中で、町で立ち上げていただいた第三の居場所「ぷくりん」に、卒業生でも参加できるようにしていただければと思います。

それから、英語教育についてたくさん話が出てきていますが、私も今年はブリティッシュヒルズの研修に参加させていただき、本当に素晴らしいと思えました。あの経験を、中学生の時にできるように町で主催していただけることは本当に素晴らしいと感じながら帰ってきました。ただ、3年生の英検を補助していただけるのは大変ありがたいのですが、合格率を上げろと言われても、英検の内容を授業でサポートすることは難しいと感じています。英検対策には、町で小学生を対象に始めた「英会話教室」(放課後子ども教室)に中学生も参加できるようにしていただくと非常にありがたいと感じていたところです。

「大江町が大好きだ」と言える子どもたちを、私たちが育てていくことが一番大事だと思っています。そのためにも、小・中学校の9年間で総合の学習を中心としながらできると良いと感じているところです。

松田町長： 中学校では、不登校が多いと教育長からも聞いておりますが、通常は2学期に入ると増える傾向にあるのですが、大江中では増えなかったのはとても良いことだと感じます。いろんなサポートをすることで、少しずつ学校に来られるようになってきております。課長からも、もうひとり補助員を付けていただくと更に良くなると提案されています。人を

雇える確証があるのであれば、予算を考えますと答えています。また、「誰ひとり取り残さない学校にしたい」という子どもの意見は素晴らしいと思いますので、ぜひ頑張っていたきたいと思います。

鴨田委員： 左沢小学校 150 周年記念式典を企画し、実施した子どもたちの姿には非常に感動しました。子どもたちで自ら考えて実行し、皆で大盛り上がりする経験はとても貴重だったと思いますし、山形テレビの「提言の広場」にも出演し、堂々と発表できたということは、子どもたちの自信に繋がっていると思います。

また、昨年 2 年生だった本郷東小学校の子どもたちが、3 年生になって町探検に来た時に、自分たちが育てた林檎を持ってきてくれました。その際に、子どもたちは昨年のことをちゃんと覚えていて、当時のことを思い出しながらお話してくれたことも大きな喜びでした。子どもたちはいろいろなことに興味を持っているのですから、私たち大人がちゃんと説明をすることはとても大事なことだと感じます。

町と子どもたちが繋がる場があればすごく盛り上がるし、子どもたちも町を知ることになり、町を愛することにも繋がりますので、これから大人になってもいつか必ず愛する町に戻って来てくれると思います。

それから、大江町の子どもたちには、いろいろな疑問を持ち、何にでもチャレンジしてほしいと思っていますので、様々な体験できる場があれば良いと思っています。

最後にもうひとつ。私は「家庭」がいつも一番の出発点になっていると思っていますが、現代社会では「両親が揃っている」というのは当たり前のことではなくなりつつあります。ただ両親が揃っていなくとも、それを補える拠り所となるような場所があれば、母親たちも不安なく勉強させてあげられるのではないかと思います。

矢作校長： オンラインの授業については、インフルエンザの影響でひとつの学年が学級閉鎖した時に実施しました。ちょうど半分くらいの生徒がインフルエンザに感染して、残り半分の生徒は元気な状況でしたので、オンライン授業を活用したのですが、画面に子どもたちの顔は映っていても、実際に顔を合わせて授業をするよりも当然、子どもたちの「雰囲気」というものが感じ取れないのです。

そんなこともあり、みんなで集って授業することの意味はすごく大きいのだと思いました。目には見えない繋がりのようなものも、実際に教室で授業するからこそ意味があるのだとも感じました。

本校も、来年 150 周年を迎えます。ですので本校の子どもたちも、先日の左沢小学校の 150 周年のイベントに参加しているようでした。私は都合で行けなかったのですが、本校の 5 年生が今、どんな 150 周年を迎えたいか話し合っています。「何か記念に残る物を作りたい」とか、「昔の生活や学校の様子を写した写真を展示したい」等、いろいろと考えがあるわけですが、保護者の方たちとも話を進めていく中で、「子ども主役でいきたい」との声があります。子どもたちが学習していること、調べていることを、ただ調べるだけで終わらせるのではなく、左沢小学校のように学習したことで何かが実現する、どこかに届くようにできれば良いのではないかと思います。

何かを成果として噛みしめるためには、自分たちが学習してきたことを形にすることも大事ですが、成果を価値あるものに大人たちが変換してあげることも大事で、それは私たち教員・大人の役目であると思っています。そのような点も、これから少しずつ模索しながら進めていきたいと思っています。

また、先ほど町長がおっしゃられた「コミュニケーション」は、とても大事だと思っています。今もそれぞれの学年が、教室を飛び出した学習に取り組んでおりますが、地域

の人と触れ合って実際に教えてもらったり、聞いたりできるように学校でも授業を組んでおりますので、大江町の課題ともリンクさせれば、きっと良い学習になると思います。

本校は幸いにも西側に広い学区を持つ学校です。この間、議会の様子をたまたま見た時に、新たな道の駅の話となり、ある議員さんから「西側にはどのようにして人を導くのだ」との意見が出ていました。そのような疑問も子どもたちの課題として捉え、リンクさせていくことが大事なのだと思います。そしてそれが生きた学習にも繋がっていくのではないかと感じています。どのように実現するかについてはまた別の話になりますが、そんなことを考えておりました。

松田町長： 道の駅は、ちょうど来年9月頃にオープンする予定なので、春からオープンまで何らかのイベントを開催しながら宣伝する必要があると考えています。道の駅は町にとっての入口で、そこからどのように柳川方面に人を引っ張っていくか、子どもたちのアイデアが出てくれば面白そうですね。

海野委員： さきほど教育長から「共生教育」の話がありましたが、SDGsの中でも「共生教育」や「共生社会」という言葉が叫ばれていますので、逆に「共生」という考え方は新しいと私は思っています。ですから「共生」とは、不変の考え方といえるのではないのでしょうか。

また、オンライン授業については、議会をオンライン化しても伝わりづらいのと全く同じで、学校の授業も中途半端にオンライン化すれば、ストレスが増えるだけで何も生まれないと私は思っております。

英語を学習するのも非常に良いのですが、英語ができて実のところ東大に入るわけではないし、いろいろな勉強をしていかないと英語が活かされない。リンゴ農家の方が英語が堪能だったとしても、何か付加価値を見出していないと他のリンゴ農家と同じです。英語を使ってグローバルに対応できれば良いが、そうでなければ英語だけに特化した学習は危険ではないかと私は思います。

ひとつ、提言としてお願いしたいことは、図書館や体育館はあるのですが、情報やデジタルデータを扱う場所が大江町にはないので、サイバーステーションのような場所を設けていただきたい。今話題の、AIやプログラミングを含め、大江町の観光情報や伝統、風土等のアーカイブを一箇所に集める。そこではネット犯罪に対する学習やネットビジネスの支援等もできるようにしたり、オンラインを活用して英語を駆使した海外との交流もできるようにしたりする。コアとなるような場所を設ければ、オンライン授業の話で申し上げた、付け焼刃的な解決方法ではなく、芯から問題も解決可能ではないかと思えます。

奥津教頭： 私は、大江中学校に勤務して10年ほど経つのですが、大江中学校の、毎年の学校評価の中で必ず低い項目があります。それは読書です。

生徒たちは、朝読書もしてはいるのですが、家で読むかと言われると読んでいない現状があります。この件を議論する中で、「それでは親はどうなのだろうか」と言われると、親も読んでないのではないかと思います。

親も読書している家庭は子どもも読んでいるが、親が読書しない家庭では子どもも読書していない傾向にあると思います。そこで、大江町単位で大人が読書できる環境づくりが必要なのではないかと思えます。

図書館の利用状況について担当者に聞くと、利用者は減っているとのことでした。それではどうすればよいのかというと、ご存知の方もいるかと思いますが、最近山形駅の自由通路に図書コーナーができました。非常に好評だと聞きます。しかも、その本は高校生が選んでいて、誰でも自由に借りて自由に返せる仕組みだそうです。私はよく旅行に行くの

ですが、その時に利用した只見線の中にも、自由に借りられていつ返しても良い本が置いてありました。大江町でも、左沢駅や街中にこのような図書コーナーが作れないだろうかと思えます。

図書館から町を変えていくのはどうだろうかと思えます。隣の朝日町では、町全体を博物館にするエコミュージアムと呼ばれる取り組みを進めているようですが、大江町も本で活性化、本を手にする環境をもっと作ってあげれば、大江中学校での「読書の項目が低い」という課題も解決できるのではないかと思った次第です。

田代教頭： 先ほどから、本校の6年生をお褒めいただき本当にありがとうございます。

しかし、子どもたちに関する調査を4月に実施したところ「自分に自信が持てますか」という項目が、非常に低い結果でした。どうしてなのかと調べていたところ、実は子どもたちは様々な内面的な悩みを抱えていることが見えてきました。というのは、今6年生は卒業文集を作っているのですが、その中の項目で「座右の銘」という形で自分たちの想いを書いています。一人ひとりの座右の銘を見てみると、「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「自分らしく」の4つを選んでいる子どもたちが多かったです。このことから、子どもたちは悩みながらも必死で成長して来たのだと感じたのです。

子どもたちが座右の銘として選んだこの4つの言葉は、今必要だと言われている「日本社会に根差したウェルビーイング」を高めていく4つの項目に当てはまるといながら読んでいたところでした。

大江町の「共生教育」の実現は、ウェルビーイングの考え方を先取りしたものだったのだと思えます。強みを出せる子ども、安心して学校生活を送れる子どもを目指すことによって、「不登校」や「いじめ」の問題解決や学力向上にも繋がっていくのではないかと考えさせられました。

西谷教頭： 来年度、本校が150周年を迎えるにあたって、これまで2回の準備委員会を行ってきましたが、年明けには初めての実行委員会を開催する予定です。子どもたちの希望や意欲を出せるだけ活かして授業を進めていきたいと、私も思っているところです。左沢小学校の、今年度の取り組みも参考にさせていただきながら、教頭は事務局として仕事をしていくわけなので、どのようにすれば良くしていけるのか、スムーズに進めていけるのか考えているところです。

もうひとつ、不登校の件について述べられていた先生方の考えに、私も同感です。先日の教頭会で、大江中学校での取り組みが紹介されましたが、とても素晴らしいと思えました。先ほどの、支援員の人数を増やすことも大事だと思いながら聞いていました。

私は、自分の子どもが不登校だった経験を踏まえて、一番苦しんでいるのは学校に来られない子どもだと思っています。不登校の子どもに対してどれだけ親や教員が寄り添って、より良い居場所を探してあげられるのかが非常に大事で、今学校に来られない時間も子どもにとっては大事なのではないかと考えています。ですので、その考えをみんなで共有したうえで我々も教育・支援をしていくべきだと思えます。

松田町長： 左沢小学校150周年記念式に参加して、まるで高校の文化祭のようだと感じました。また、地域の人の興味を一番引いていたのは、昔の写真の展示だったと思えます。

村山教頭： 私は今、藤田の丘分枝に勤務していて、大江町の子どもたちを見ていません。他市町から集まってくるいろいろな子どもたちを見ています。それでも私は、大江町立の学校職員として、分枝の生徒たちにどんな形で大江町を知ってもらえるか、今年1年間すごく考え

て、様々な取り組みをおこなってきました。

春には、大山自然公園を歩いてヒメサユリを見せました。その時に、中学3年生のひとりに、絵がとても好きな生徒がいてヒメサユリのスケッチもしました。秋にはヤナに行つて、本当は鮎のつかみ取りをさせて食べさせたかったのですが、猛暑で出来ませんでした。しかしヤナでは「モクズガニ」を5,6匹コンテナに取っておいてくださっていて、子どもたちに見せて触らせたなら大喜びでした。小学校生徒3人の中にとっても生き物が好きな生徒がいて、教室で「カナヘビ」を飼っているくらい生き物が好きで、普段は見られないような笑顔を見ることが出来ました。

またつい先日は「青苧復活夢見隊」の方々から、食育のことも絡ませながら青苧の話を聞かせていただき、青苧プリンをごちそうになりました。その中で、大江町の良い所として、藤田の丘分校に通う生徒たちが大江町の子どもたちでないことも分かったうえで、関わってくださる「人としてのあたたかみ」や「関わり方」も学ばせることの出来る町が大江町であると感じました。先ほどから出ている「共生教育」も、今後の大江町の教育に必要なものだと思いますし、せっかくですので、大江町だからこそその良さに触れられる、また大江町の人と関わることをとことん大切にしていけるような学校にしていければと感じているところです。

松田町長： 朝日学園での活動はなかなか見えづらいいですし、子どもの入れ替わりも激しいですが、町の事を知ってもらえるような取り組みを一生懸命してくれているのだと、今お話を聞いて思いました。学校間の交流ができれば良いのですが、なかなか難しいと思います。ですが、子どもたちのために交流する機会をできるだけ設けていただければと思います。

みなさんからご発言いただきまして、ありがとうございます。先ほど、教育長やみなさんからの話の中で「共生教育」は続けるべきだと感じている人が多いのだと、あらためて思いました。

年に1回の総合教育会議でしたが、本当に有意義な話し合いができたと思います。以上で協議を終わらせていただきます。本当にありがとうございます。

西田課長： みなさん、大変ありがとうございます。本日の総合教育会議は終了しますが、次期教育振興計画や学校の在り方に向けては、この会議でいただいた意見を取り入れながら進めて参りたいと思います。

それでは、これもちまして令和5年度の総合教育会議を終了いたします。長い時間ありがとうございました。

◎閉会

○西田教育文化課長 令和5年度大江町総合教育会議を終了することを告げた。

閉会 午後5時00分